

「脳梗塞を繰り返し徐々に身体機能が低下しながらも在宅での看取りに至ったケース」

《 患者情報 》

患者：Aさん 男性
診断名：脳梗塞，脳血管性認知症
家族構成：娘一人（同居）
既往歴：高血圧症

《 経過 》

- 65歳 脳梗塞発症。中度の右半身マヒありもADL自立され，娘さんと自宅で生活されていた。
- 68歳 脳梗塞再発され，意欲低下，発語の減少，日常動作を忘れるなどの認知症状が出現。
- 69歳 脳梗塞再々発。入院先でリハビリテーション実施も，排泄に一部介助必要な状況となる。
- 72歳 4度目の脳梗塞再発。嚥下障害残り，水分摂取時とろみ剤使用。また，歩行時と食事摂取時一部介助，排泄時全介助となる。
- 74歳 両下肢筋力低下に伴い，自力歩行不良。徘徊が少なくなり行動範囲が縮小。自宅での食事は，娘さんが工夫して準備。
- 75歳 同居の娘さんが，椅子から転落し肋骨骨折されたため，介護困難となる。
- 78歳 発熱により入院。誤嚥性肺炎と診断。今後は経口からの食事摂取はリスクが高いと判断され，胃瘻造設。退院後はベッド上での生活となり，胃瘻の管理等も娘さんが実施。
- 80歳 嘔吐が続き，呼吸状態も不良。在宅酸素開始。定期的な吸引等の医療処置も必要となる。
- 81歳 在宅での看取りとなった。